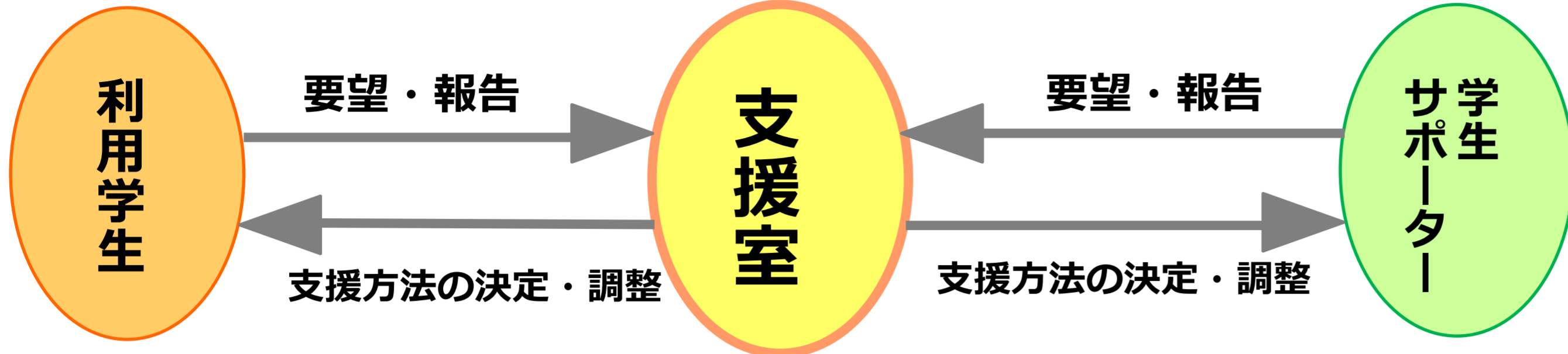


# 名古屋大学 学生相談総合センター 障害学生支援室

## 障害学生支援サポーター air (あいる)



### 聴覚障害学生の支援体制 支援室がすべて仲介・調整



双方が現場で感じたことを支援室に報告  
利用学生の立場に立ち、柔軟にサポートの形を作り出す

互いに気兼ねなく柔軟に意見を出し合える

現場の声をすぐに反映できる環境

### 今回は聴覚障害のある大学院生へのサポートについて報告

#### サポートの変遷 いろいろな立場からの意見を基に改善

理学研究科大学院生の例	利用学生	サポーター	利用学生
	<b>多くの情報がほしい</b> <b>パソコンノートテイク</b> 情報量が多くなるが、利用学生が使い慣れていたので、手書きノートテイクから変更できた	<b>専門用語が聞き取れない</b> <b>利用学生による用語の抜出</b> 専門用語、略称にふりがなをふる前日までに資料を用意してもらい、予め単語を登録	<b>発表言語に合わせてほしい</b> <b>留学生と日本人学生の関係入力</b> セミナーが英語で発表の場合は、留学生と日本人学生が一組になって、パソコンノートテイクを行うことで、英語と日本語の両方に対応

#### 大学院生と学部学生の違い

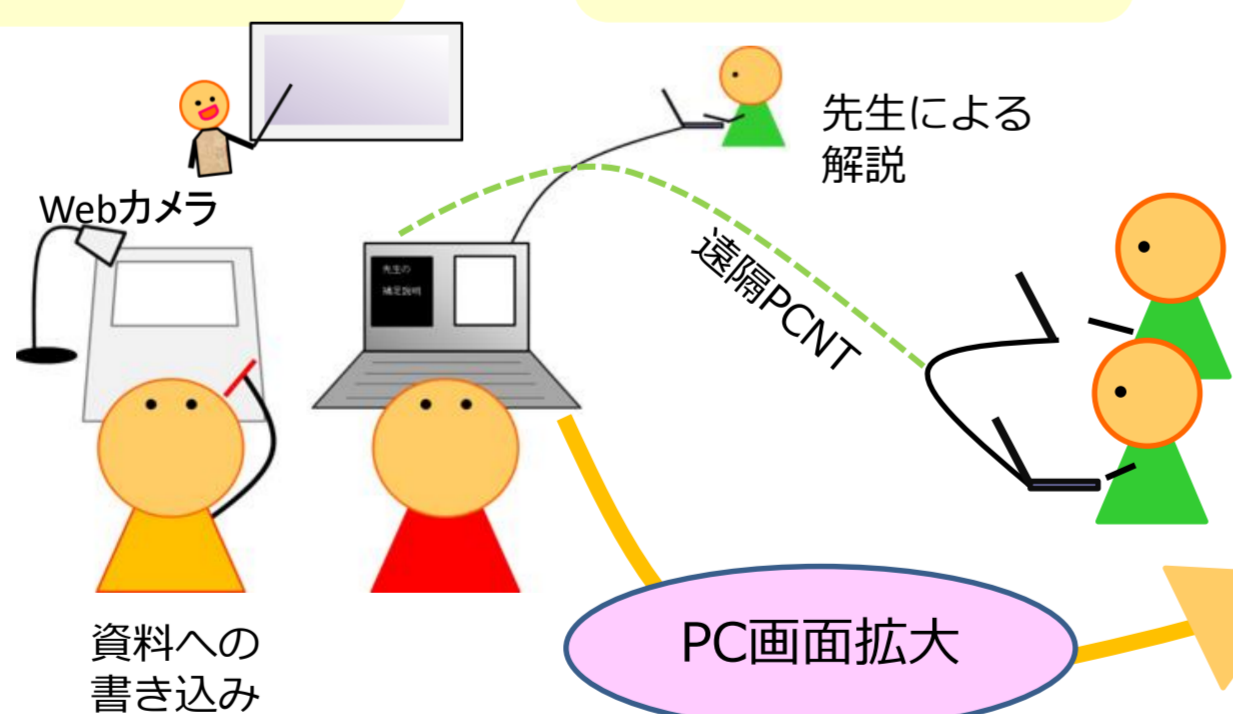
- ・ **発表**とそれについての **ディスカッション**をするセミナーが多い
- ・ 各研究室で **違うセミナー形式**
- ・ セミナーの内容が非常に **専門的**

工学研究科大学院生の例	利用学生	利用学生	サポーター	研究室の先生
	<b>サポートが入ってもセミナーの雰囲気はそのままだ</b> <b>手書きノートテイク</b> 教室が狭く、場所の占有が少ないパソコンのタイプ音も気にならない <b>先生による情報保障の補い</b> IPTalkによりパソコンに表示	<b>多くの情報を一箇所に表示してほしい</b> <b>遠隔パソコンノートテイク</b> 1つのディスプレイに文字情報を表示させるために、手書きノートテイクから変更 <b>資料書込み</b> Webカメラを使って表示	<b>専門用語が聞き取れない</b> <b>研究室の先生によるサポーターへの用語解説</b> 解説してもらうことで、専門用語を聞き取る力が向上	<b>限られた情報の中でやり抜く力を身につけてほしい</b> <b>利用学生の将来を見据えたサポート</b> 利用学生の知識が増え、社会に出てから支援が整っていない中でも限られた情報の中でやり抜く力を身につけてほしいという先生の意見から、利用学生とも話し合った上で、セミナーで遠隔パソコンノートテイクを行わなくなった。

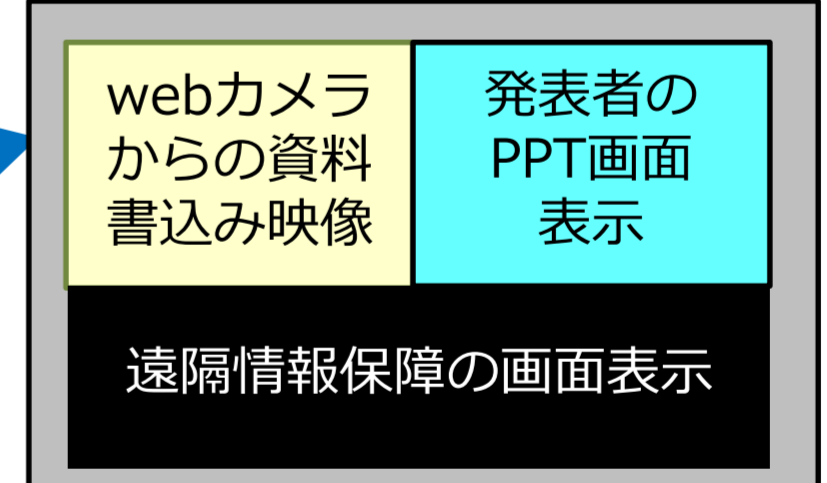
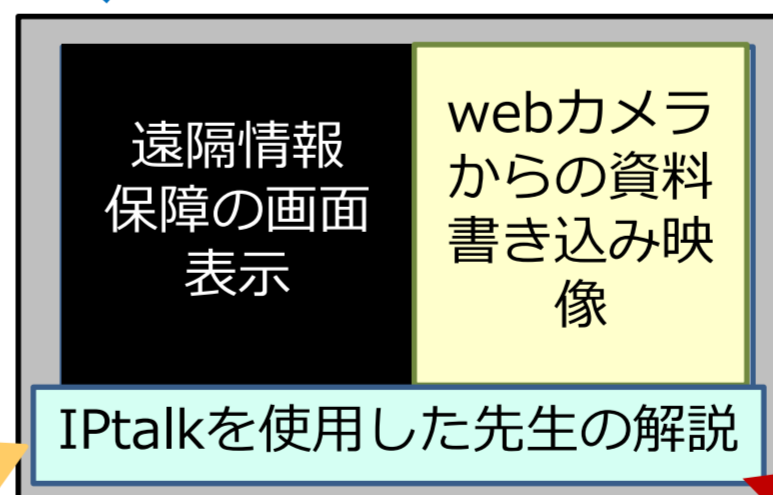
#### サポート事例 多様な方法の組み合わせ

資料書込み (webカメラ) × 遠隔パソコンノートテイク × 先生の解説表示 (IPTalk)

遠隔パソコンノートテイク、資料書込み、先生の解説を同一画面に映し出しました。後に、利用学生の研究に関する知識が増えてきたことから、遠隔パソコンノートテイクにかわり、手書きノートテイクを行うようになりました。



分割画面の応用として...



#### 画面分割のメリット

複数の画面を1つのディスプレイに表示させることで、聴覚障害学生の視線の動きが狭い範囲で済み、負担も少なくなります。

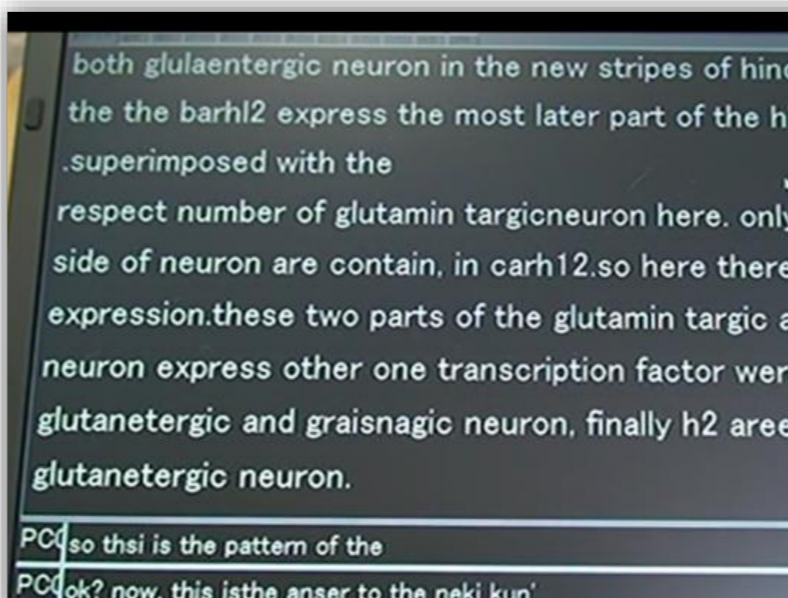
先生の解説は、情報保障の打ち損じを補うためのものであり、何か特別な情報を打ってくれるものではありません。

パソコン関係 × 研究発表



利用学生がセミナーで発表を行う時には、投げかけられる質問をパソコンノートテイクにより伝えます。  
**アカデミックなコミュニケーションの一助**としても行われてきました。

パソコン関係 × 英語



英語によるセミナーでは、留学生と日本人学生が組になり、英語と、時々入る日本語に対応したパソコンノートテイクを行いました。

問い合わせ先

名古屋大学 学生相談総合センター 障害学生支援室

連絡先 TEL 052-789-4756

e-mail sg-sien@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

